

平成27年度第2回

香美市総合教育会議議事録

日時 平成27年11月25日  
午前10時00分 開会  
場所 香美市役所3階会議室

**1 招集場所** 香美市本庁舎 3階 会議室

**2 会議の日時** 平成27年11月25日(水)  
開会：10時00分 閉会：11時58分

**3 会議出席者等**

(構成員)

市長	法光院	晶一
教育委員長	宮地	憲一
教育委員	浜田	正彦
教育委員	西	美紀
教育委員	竹平	豊久
教育長	時久	恵子

(事務局)

教育次長	小松	美公
総務課長	山崎	泰広
教育振興課長	前田	哲夫
生涯学習振興課長	久保	和昭
総務課	池澤	卓也
教育振興課	岩本	岳

(傍聴人)

なし

**4 議事**

- (1) 大栃高校跡地の利用について
- (2) 保育の充実について
- (3) その他について

## 5 議事の経過

(開会 午前10時00分)

### (山崎総務課長)

定刻が参りましたのでただ今より「第2回香美市総合教育会議」を開会いたします。前回に続きまして、司会をさせていただき総務課の山崎です。よろしくお願いいたします。それでは、開会にあたりまして市長よりご挨拶をお願いいたします。

### (法光院市長)

皆様、おはようございます。第2回の総合教育会議を開催するにあたりまして、委員の皆様には大変お忙しい中をご出席くださり、ありがとうございます。

また、日ごろは香美市の教育の充実のために、色々とお骨折りをしていただいていることに対して深く感謝申し上げます。

本日、皆様にお集まりいただいたのは、何点か皆様にご意見を伺いたいということでお集まりいただきましたので、率直なご意見をいただきたいと思っております。大変簡単ではありますが、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### (山崎総務課長)

それでは早速、本日の議事に入りますが、教育委員会よりご提案をしていただいていることにつきまして、意見交換を行うということで進めさせていただきたいと思えます。

それでは一点目「大栃高校の跡地の利用について」の意見交換を進めていきたいと思えます。

### (宮地委員長)

教育委員会から提案しております議題について、自由に意見交換をさせていただきたいと思えます。

まず、旧大栃高校の活用です。物部町の今後について地元の方々のお話を聞きましたが、皆さんはこのまま何もせずにおくと非常に厳しい状況になるとの危機感を抱いております。私自身も同様でありまして何とか活性化できないものかと考えたのが旧大栃高校の活用です。

大栃高校は地元の大きな熱意があって開校したという経緯があり、今でも地元の方々の思い入れのこもった大切な施設です。そのことを考えたとき、あの広い土地や建物を何もしないで置くというのは大変もったいないと思えます。そこで、大栃高校を県に譲ってもらい、保育所、小学校、中学校を一ヶ所にまとめ一貫教育を行う。またコミュニティーセンターや高齢者・地域の方々が利用できるものをつくり、子どもから高齢者まで集えるものにする事で活性化が図れるのではないかと考えます。

更に、地元の産業や就労といったことを考えるうえでの拠点としての位置づけもできるのではないかと思います。

### (山崎総務課長)

提案の理由等をご説明いただきました。各委員の皆様の思いやご意見もあると思えますので、順にご意見を賜りたいと思えます。

### (浜田委員)

宮地委員長が述べられたように、人口減少その他色々山間部に生じており、今のままでは物部地区は衰退していってしまいます。何らかの将来に向けた計画を今のうちに打てるものは

打つべきでは。

統計的にも2060年には、物部地区の0歳から15歳までの人数は12名といわれておりますから、それを防ぐためにも、魅力ある教育が、施設を含めて必要になっていくと思います。

#### **(竹平委員)**

それぞれ委員さんが言われるように、何とか大栃高校の跡地を、教育関係の拠点として上手く活用できないものかと、前から思っていたところです。

まず、一つとして小中一貫校を推奨されておりますので、そこを十分に検討していけるのであれば、特色ある教育関係の施設ということでやっていってはどうかということと、もう一点は、施設として剣道場や相撲場など県下の立派なものがあるということなのでこれを活かしていってはどうかということです。

具体的には、そのまま施設を活用するという事になれば、それぞれスポーツや剣道、相撲などをやっている高校や大学など、合宿などで子ども達を物部に呼び寄せて、やっていただくということを考えています。剣道や相撲は、地域の年配の方々も関心を持たれるのではないかとということ、学生を呼ぶことによって地域でも消費が生まれてくるのではないかと思います。

そういったことから、小中一貫校という考えと並行して施設の活用と、若干欲張りかも分かりませんが、教育の拠点とすれば小中一貫校の特色のある教育が行われるのではと考えます。

そういう拠点をつくる事によって、大栃を含めた物部町が皆さんに関心を持たれ、寄り添ってくるというような仕組みを考えたらどうかと思います。とにかく教育の拠点施設として幅広く活用してもらえたらと思います。

#### **(西委員)**

子ども達の中には、特別に支援が必要な子ども達、大きな学校になじめない子ども達が年々増加していて、以前は繁藤に小中学校があり、南国市から子どもが学校へ通えないときでも受け入れて支援をしながら、というかたちでしていたことがありましたが、そういう意味で手厚く対応できる学校が香美市内に無いので、大栃の場合は人数もそんなに多くないので先生の日も行き届いて『特別支援』という大きな学校ではなじめない子が小さなところからという観点から考えたときに、市外からも来るのではないかなと思っています。

#### **(時久教育長)**

一つ目の議題については皆さんおっしゃられていたように、物部地域の活性化というのが大きな前提にあるということと、もう一つは、子ども達が少人数になっている学校をどういうふうに充実して活性化していくかという、二つのことがあると思っています。

遠い未来は見ずに今のことでやっている施策が多いので、今回の議題というのは、大栃高校にしても、民具は沢山入っているし県立図書館の本もそこに置いてあるとかいうようなことですけど、今年とか来年とかいうことではなく、動きをどんどん作っていった物部の活性化に大栃高校が使えないかと委員会では話していたところです。

大栃保育園、小学校、中学校の一貫教育構想というのは今やっておりまして、コミュニティスクールと併せて、子どもの成長過程をできるだけ一貫の考え方で指導をしながら、皆で子ども達と交わりながらやっていこうとしています。

保・小・中の会は頻繁にやっています。コミュニティスクールの会もずっとやっています。そこで一緒にやれることを考えながら校長先生を中心に考えているのですが、委員会の方からも働きかけて、小中の授業の相乗りをやらせてもらっています。

今は、小学校への英語の授業に中学校の英語の先生が行ったり、音楽だったり美術だったりいろんな教科で小学校・中学校が互いに出かけ一緒にやってもらうというようなことを行っています。前から、中学校で小中合同運動会をやっており、そこへ県も入ってやるそういう行事もやっています。

また、小中が体験学習で山の学習を沢山取り入れるというようなことが、現在は学校を結んで一貫して子どもを育てようということと、それから、物部の良さをしっかりと学ぶということを中心にやっています。

しかし、やってはいるけれども、先の見通しがあってこれをするという話ではなく、ちょっとずつ試していつまでたっても行きつかないかも知れないと焦っています。

子どもが減る方が早いので、ということが一つ。それからもう一つ、委員会というよりはコミュニティスクールを検討している会の中で、コミュニティスクールの方から、大栃保育園、小学校、中学校の存続に関するアンケート調査を既に取り取ってくれて、データの結果が出ていますが、実は皆が大栃小、中学校を残そうとか、絶対に守らなければならないという意識を持っていると思ってアンケートを取ったと思いますが、やってみると「移ってもいい」という意見が多くあって、これから大栃はどうすればいいのかという課題も浮上しています。

そんなことを思うと、大栃高校はとても大事な場所ですのでそこを中心としながら、大栃の地域の活性化と他の地域にはない教育で盛り上げていくということをししないと、同じことをしていたら、住民アンケートのように段々と大栃から出て行くということが加速してしまいます。極端に人口が少なくなると復活が難しくなるということがあって、委員会としても非常に焦っているところです。

#### **(山崎総務課長)**

ありがとうございました。現状とそれに対する課題。また、急速に進んでいる課題に対してどう向き合うか、などのご意見が出ました。

これらのことについて、もう少し議論をしていきたいと思いますがどうでしょうか。

#### **(法光院市長)**

お話をいただいた中で、はっきりしているのは一貫教育。これはやろうという方向なんですよ。それからコミュニティスクールは必要な状況で効果も上がってきているし、これはやろうと。あとは特徴のある魅力がどう生まれてくるか。支援の必要性のある環境が望ましい子ども達にとって、あそこだったら頑張れるという思いの子ども達を迎えられるように。

これからモノを創造していく力をためていくためには、やはり算数だとか数学だとか理科だとか、そういうところの強い人を育てて欲しいし、物部にとっては少し風が吹いている状況です。山に残ろうという気持ちができている、山の中でくすぶるのではなく活躍できる場として山を見るかどうかというところ。ゆずを生産している人は誇りをもって仕事をしており、生活していく中でも十分収入があると思われれます。そのあたりを子ども達が、今の人たちよりもっと効率的にグローバルに物事を戦略的に売り出していけるような、力をつけていくためには、英語だとか数学とかの学力をつける。そういう特色のある学校づくりを思い切って小学校からやってはどうか。

小学校、中学校、高校と考えると今、学童保育の施設も建てているところですよね。高校に持っていかれると距離があるなあ、中学校は距離があるなあと思うけれども、運動場もいろい

ろ考えて元気な子ども達が活発に使ったら中学校のグラウンドもいいし、下のグラウンドも使えるとあの辺りがいいかなと思ったりもするし。それから小学生と中学生を比べたら身体の形もずいぶん違うのでトイレ一つとってもやり直さなくてはならないと思います。その身体に合ったものにしないと、箱があるわけだからいいよというわけにはいかない。そう考えると高校を考えるとなかなか利用しづらいところがあるという思いもあるので、小中学校は一緒にするべきだという方向で考えると、中学校あたりを考えるとということを考えながらやってはと思います。

ただ、大事なことは、声を大事にした上で実現のためにはお金もかけ、スピードも速くして、やろうと決めた以上はやることが大事、待ってられないということだけは皆共通していることだと思えます。

場所については、地元の気持ちを一番大事にする必要があると思います。高校の建物は立派な建物で、私が一番やりたいのは雇用の場にしたいのですが、何年かやったけれどもなかなか行き着かなかったところなのです。

民具にしても、「置き場」ではなく「展示」にさせていただいて、分類をしていただいたら値打ちがずいぶん上がってきますよと思います。まだ分類ができていないので、ここを分類していくと、これ以上の建物はありませんから、「あそこに行けば高知のものはすべて見える」となって、魅力が出てくるのではないかと。中途半端な規模でなく、中途半端な置き場にしないで、そこへ集中して、「四国の民具はあそこだ」という状況を作り上げたら一番いいのではないかと思います。

#### **(山崎総務課長)**

ありがとうございました。共通の課題と思い、市長から高校の跡地利用について新たな提案が出てきました。このあたりについてご意見、提案はありませんでしょうか。

#### **(竹平委員)**

根本的に大栃高校をどうするか。委員だけでなく物部の住民の皆さんも関心があるということですが、現状は言われたように歴民の民具を倉庫代わりで置かれている状況の中に、今、小中一貫の柱を建てるとした場合、新たに拠点施設で発足するというので、「あの大栃高校が甦った」というのが一種のシンボリックなものになると思うのです。

具体的には、まず「特色のある学校」というようなことになる。子どもをお持ちの保護者の皆さんが「あそこに行かせてみよう」というような思いになるような、そういった教育方針を打ち立ててやると、いけるのではないかとというふうに思います。幸いにもベースはできていると思います。特に物部の場合は、キャリア教育もやっております。それから一步進めてコミュニティースクール、さらに地域の皆さんが保育を含めて学校に対しては非常に関心を持っており、ということもありますので、教育と同時に地域の思いも一緒に、特色のある学校づくりをやっていくと。

「あの学校へ行ってみよう」というような魅力のある学校であれば保護者は、香美市であろうが、香南市であろうが市外に住んでいても子どもにスクールバスで送迎するというようなことでもやっていけるのではないかと思われます。

また、歴民の資料を整理整頓して大栃中学校へ展示すると、大栃小学校には歴民の学芸員もおりますので、分野別に分けて「ここに行ったらこれが見えます」というような大栃町内をめぐるということもやっていけるのではないかと思われます。

あと、こだわって言うのは、相撲場と体育施設ですね。あれも同時に活用できたらなという思いもあります。

#### **(浜田委員)**

市長が言われることは、財政的なこともあるでしょうし、県との対応の部分もあると思います。民具に関しては、大学も関わっており 10月 24、25 日高知県芸術祭「モノベモノガタリプログラム」と題して去年の倍 300 人の方に来ていただいたことは、民具の大切さを象徴しているものと思われます。ただ、歴民館としては資料があまりにも少ないため難しいのではと考えます。

#### **(時久教育長)**

保・小・中が若干離れており、本当は子どもが行き来できるようにしたいというのがありますが、移動に時間がかかるので、授業時数がいっぱいの中でやっていますので、一緒にやるということが進みにくいです。

この前、大柵中の校長が物部にはスクールバスがあるので、ちょっとした行き来でもスクールバスを使わせてもらおうということをしていました。大柵小から大柵中の区間だけでも、スクールバスで行くと距離の問題がなくなるので、とにかくそれでやってみますということで、これからも子どもを行き来させようとしています。日ごろ、学校の方も工夫しながらいろいろやっていますが、「物部の教育ここに有り」って打ち出すにはこれぐらいではいけない。やはり人は減るのです。

香美市の学校はどこも特色を出していて、それぞれいいので、「どうしても物部に行こう」といって内からも外からも来てくれる学校にするには、よほど特色を出さなければならない。その特色というのは物部の活性化につながる特色でなければならないと思っています。そのときに、物部の教育そのものを、体験とか、農業とか、これからの生産するようなものをしっかり学ぶ事ができる小中学校農業高校版みたいなそれぐらい特色を出すことにするとそういうところに行きたい人は、来てくれると思います。子どもは面白いと思ったことは一生残ってそれやりたいと思うので、遊びながらやれるぐらいのそういう学校にしないと駄目だろうと。

物部だけでやっても影響が少ないので、農業高校と提携するとか、高知大学と提携するとか、工科大とはいろいろやっているけど、もっと強く結びつくとか、地域が応援することと、地域が活性化することと結びつけた大々的な教育に持っていけないと厳しいだろうと思っています。

教育は作り変えるぐらいやらないとひと目を引かないだろうということと、それをやりながら学区制を解く。自由にそこへいけますよと、それから特認校の制度を採って、教育課程を変えていく、学力はもちろん付けるようにするが、もっと特色のある教科を作ったり、寮を作るとか、そういう思い切ったことをしないと、減る一方になると思います。他の地域で県外からの留学制度をやっているところを見に行ったりしました。面談もしながら受け入れていますので、第二のふるさとができて、そこへ大人になったときやってきたということも聞いたりします。いろんなことで、物部は空港からも近いではないですか。行き来は直ぐできる場所なので遠くのところとは違うわけです。いいところは沢山あるので徐々にやっていくのはだめだと思います、とっぴなところを取り入れてガバッと変えるのにもうちょっと意見が欲しいなと思います。

#### **(宮地委員長)**

現在の教育では、高校や大学を卒業したら多くの子どもたちは県外に行きます。学力を高めるだけではこの流れは止まりません。子ども達が地元に残って生活を営んでもらうためには、就労の場、魅力ある仕事を作っていかなければならない、これは我々大人の責任です。しかしこれは大変難しいことです。

私の提案は、子どもと大人が常に一緒にいられる施設です。大人が周りにいて仕事をしている、あるいはお年寄りが周りにいて生活をしている、子どももそこで過ごすことによって仕事に対するあこがれや郷土愛が生まれるのではないかとの思いから、旧大栃高校の活用を考えました。

#### **(浜田委員)**

先ほども言われたのですが、今から雇用の場といえばゆずしかないのかなと。全国一の玉出しですけど、最近は落ちてきています。就労人口の平均年齢が70歳前後になっていますので、維持できなくなっています、市長は大変だなと思うのですが、物部をどうするかというのが、結果的に香美市をどうするかにつながっていくと思うのです。

#### **(法光院市長)**

物部の課題は物部だけのものではありません。特徴のある教育を思い切ってやろう。単に教養だけ高めていってもだめ、最終的に生産へ結びつけていかななくてはいけないことは、はっきりしています。香美市でいっぺんにやると金があるので先行事例をつくりたいです。実験なんて言ったら怒られますけど、ここの子どもにその教育を思い切って取り入れたら「あそこに行きたい」と言わせるぐらいやっていただいたら「うちもやりたい」ということになりますので成功事例をつくりたい。だからこそ、ここでやったらいいじゃないかと、手厚く教育できますよね。これからは日本の中だけではやっていけない。どんな職場に行っても最低英語はできないと仕事になりません。これは特別なことではない、最低やらなければならない話を言っているだけですので、それを、小さいところで、スピードを上げていい方向になることは間違いないので、皆さんに実感していただく実験をやったらいいんだと思います。

#### **(山崎総務課長)**

市長からは成功事例を作って、皆に来たい学校にしたいという思いが伝わってきました。この件について、ほかに意見はありませんでしょうか。

#### **(西委員)**

英語に限らず、中国語も、今は中国からのお客さんもすごいですし、英語、中国語はこれから必要になってくるのではないかなと思います。留学生を受け入れてクラスの中に入れてみると言葉も自然に上達すると思います。異文化も習得できる、そういうのを目指していけばいいかなと思います。

#### **(法光院市長)**

困難なところで成功することぐらい効果が多きいものはありません。小さいところに投入する努力というのは大きいところで投入する努力より確実性があると思います。百聞は一見にしかずということですからこういう時代が来たのだということが分かれば段々変わって行くと思います。そういうことで、がんばらなければならないと思っている保護者の方がいっぱいいるので、市もそういうところでも足を出して実際やるということにすればちがう、語学は小さなときからやっていけば、それこそ恥ずかしいことは知りませんし、当たり前になってくるのでそれは

大事だと思います。

香川も徳島もがんばってやっています。観光客もどんどん来てもらうようになっています。今準備をしなくていけない段階です。やれることはやらないといけないだろうと思います。我々が、次の子ども達のために残していくものやっつけていかないと時代を見てくれてなかったねと残念といわれるより、思い切ってやっつけて進めること、これが一番大事だと思います。我々に求められているのは決断力です。

**(宮地委員長)**

市長のお考えと我々の考えていることは同じです。今回、旧大栃高校の活用を提案しましたが、すぐに結論の出るものとは思っておりません。市の活性化のための一つきっかけとして提案させていただいたものです。今日お話しした中でもやっつけていくべきことが見つかりましたので、できるところから早急に取り組んでいかなければならないと思います。

**(山崎総務課長)**

委員長からは、今日の議案のまとめと提案がございましたので、大栃高校跡地利用については、この程度で終了させていただきたいと思います。これを、学校の取り組みに生かしていただければと思います。

続きまして2点目の議事に入らせていただきたいと思います。

2点目は「保育の充実について」でございます。これは委員会の方からいただいております。提案の説明をお願いします。

**(西委員)**

教育委員も保育所訪問をさせていただいており、先日、園長先生との懇談会も開いていただき、いろんなお話をさせていただきましたが、自分が子どもを保育園に通わせていたときから比べ、あまりにも臨時の職員が多く、いったい誰が正職の先生なのという感じで先生の働いている時間も8時間で限られているでしょうから、子どもを預ける時間が10時間とか11時間になってくると、朝預けた先生と帰るときの先生が違うのは当たり前なのですが、先生が一日のうちに何回も入れ替わってしまうようなことが現状で、園長先生も勤務の形態が11パターンあるというのを、あけぼの保育園でおっしゃってございまして、それを組むだけでも時間がかかるだろうなというところなんかもあったりして、子ども達は「三つ子の魂百まで」ではないですが、子どもの人格を育てるのに一番大切な時期を過ごしていて、実際親と過ごしている時間より長いですね。先生というのはすごく大事だと思っています。本音を言うと正職の先生をもう少し増やしていただいて、正職というか「保育士になりたい」という意欲のある先生を増やしていただいて子どもに接していただきたいなという思いでここにあげさせていただきました。

**(山崎総務課長)**

ありがとうございました。西委員から、香美市の保育所における課題について提案がありました。この議題について議論を深めて行きたいと思います。

**(宮地委員長)**

保育所には愛着形成から始まり社会性を培いながら自立へという目標があり、それを小学校につなげるようになっています。しかし現状は、「保育は保育」「学校は学校」という形になっています。人間形成の一番大切な0歳から5歳までの「保育の充実」が必要です。

その保育を小学校へつなげなければなりません。

保育の充実を図ろうと書く保育園は頑張っているのですが、パートタイマーの方や臨時の方がたくさんいるため、なかなか大変だということを保育園長から伺いました。当然、香美市も現状を理解したうえで計画採用をしていただいていると思いますが、園児数の推移を見ながら、例えば計画採用の幅を広げるなどの対応をしていただきたいと思います。

保育士が不足していることは香美市だけでなく、全国的な状況です。採用後の保育士の研修や能力の向上を図ることは教育委員会の責任ですのでしっかりと行っていきますが、採用についてはよろしくお願ひしたいというのが提案の趣旨です。

#### **(浜田委員)**

私が思ったのは、やはり西さんが言われたように、子どもは3歳までに多くのことを経験します。親も同じようにいろいろな経験をします。その親の教育もしなくてはいけない、家庭教育、食育も含めて親と最初にすべてお話できるのは、保育士さんしかいないのだなど。

ここをちゃんとしないと次の段階で、小学校、中学校にうまく行けない子ども達の面倒を見ながら親の教育も見なければならぬ。ぜひいい人材をよろしくお願ひします。

#### **(山崎総務課長)**

ありがとうございました。子どもを育てるためには保育士を確保しなければいけない。確保するためにはいい条件を提示しなければいけない。行政の悩みとしてはその予算が一番悩ましいところですよ。

私の方より、採用担当部署として、現状を紹介させてもらい、議論の参考になればと思います。

保育士の採用については、ご指摘のようなことも勘案しながら、今までは退職2分の1補充の方針を貫いておりました。急速に職員数が減少していることと、法改正によりいろんなサービスを幅広く提供するようになった関係で、人が不足するということが出てきました。

そこで今までの2分の1補充から退職補充の考え方に転換し、地域の課題を勘案しまして正職員の比率を増やす、ただ予算的に急に何十人も雇うということではできませんので、計画的に比率を上げようとしています。だから、退職以上の募集、採用をしております。

先ほど、話に出ましたが、誰でも良いというわけではなくある一定のレベルをもつ方においていただきたいという思いがあります。なので採用試験は、今年は成績が振るわなかったという現実があります。今後二次募集を視野に入れて検討しております。

現在、正職員の比率が43%で低いです。市としては50%の比率を目指してやっています。ただ、今言いましたとおり、いっぺんに多く雇うことはできませんので50%を目指して順々にやっていくことにしていきたいと思ひます。

臨時職員の待遇面ですが、実は昨年大幅に単価を上げました。近隣自治体との間で消耗戦になっています。

それと、保育士を志望する学生の状態については、最近は分かりませんが5年ぐらい前には担当課におりましたので、いち早く県内の学校、専門学校、短期大学に出向きました。そのときのことについて、非常に保護者の方々が少子化の状況を懸念して子どもさんに保育士志望をあまり進めない状況から、ある専門学校については定員割れをしていると、しかもその道に進むのはその半分以下だそうです。そういう状況で募集していると官公庁の試験はどうかということも申されておりました。

短期大学の方は十分学生がいましたが、当時正職員の門戸が非常に狭いということで、私立の保育所、保育園、幼稚園に進む方が多くいまして、そういうことから、応募が少なくなっています。また、就職するまでの間に臨時職員として働くことについても、人が少ない状況であります。そのときには依頼に伺いましたが、最終的には2名ぐらいしか来てくれなかった実態があります。

これも全体的な少子化ではなく、今の法律の改正により保育が必要ということを経済全体で周知していかないと、もともと少ないところに養成が少なくなっているということになります。正直100円単価を上げると人件費が大きくなるので、そういったことにご理解いただくとともに、具体的なことが視野に入れなければなかなか解決に至らないのかなと思います。

#### **(浜田委員)**

新卒を試験対象で採用するというのであれば、県内外の専門学校、大学と連携を密にして、時間掛かるかもしれませんが、宣伝して、実習も受け入れながら育てる方法もあると思います。もう一つは採用の仕方です。保育士は子ども達に適した人材を採って知識よりも、人間性や熱意を持った方でないと知識があっても人を相手にしているのでそこが大切ではないかなと思います。

#### **(法光院市長)**

子どもがどう育つかというのが一番の中心の課題です。東京は、特殊出生率1.01、香美市はあまり高くないが1.38、まだ地方の方が、子どもが育つ環境にあります。地方が若返らなくては日本の再生はないと。中央の方から人が増えるということはなかなかないので、地方が頑張れということです。

子育てのできる環境を作っていこうとか、若い人の結婚の希望や妊娠、子育ての希望をかなえること、これが行政の中心課題です、ということをやっているところです。

今、保育所は大変だということで、これ以上正職の比率を下げないように動いています。でも良く考えておかななくてはならないことは、昭和40年代、国は保育の費用については5分の4応援してきました。それから3分の2に減らしてきて、2分の1になっているけど、補助だったものが、交付金の形に変わってきた。実質我々が国から応援を受けているのは、2分の1以下だと言ってもいいでしょう。お金がないと袖が振れない、それに行革ということもあり、人を減らしていこう、減らしていこうということで、「聖域無き行革」、保育の方も人を減らしてきたということだと思います。そういう中で今、何とか人を増やしていこうと思うところですが、割合というのは、分子と分母、分母が大きいと比率は下がるわけですね。子ども子育ての支援の制度が始まり分母が増え、増やしたため比率は下がってしまいました。その前に、この町は子育てに真剣ではなかったのかということ、そうではない。他の町より保育には力を入れていた町なのです。制度には無い人員を配置してきました。

それからもう一つつらいところは臨時職員の場合1ヶ月しか雇えないことです。一月切ったらそれでいいか、かといってそうはいかないです。そこにパートだとか、季節をずらせてだとか、かなり効率の悪い雇用の形があり、分母を大きくしている。結局、効率の悪い雇用の仕方をしてる。それから当然働いている人達にお休みを与えます。お休みを与えたらこの消化率は非常に高い。正職員はおそらく40日休みがありますけど、12、3日だと思います。

臨時の職員の方はおそらく100%休んでいます。それぐらい休むと休む人の補充をしなければならぬ。さらに分母が大きくなる。非常に効率の悪いことをしています。子ども達のた

めには必要なことでやっている。去年子育て支援事業があつて人を増やさないといけない。それをやっていくためには臨時さんも必要、この金額では来てくれんよねというものですから、上げないとしょうがない。年間で1,200万円上げました。子ども子育て支援事業で制度が変わり、親の負担も大きくなり保育料を下げた欲しいということで1,200万下げました。増えたほうが1,200万、下がったほうが1,200万、2,400万負担してきました、しかし、なかなかうまくいかないところが現状なのです。

よく考えていかなければいけないのが、8時半から4時半までの保育から、今は朝早くから夜遅くまでやっており、子ども達とお母さんの距離はだんだん離れていっています。私たちの理想とする子育てが到達するところが本当にそれでいいのかと、それが理想的な保育ですか、手前に戻って考えてみないといけないのではないのかというところに立っていると思うのです。子育て、出産をしたお母さんやお父さんたちに、今、育児休業が1年間与えられている。それも与えられている企業と与えられていない企業がある。1年間でいいのか、2年、3年、やはり子どもが育つ間はやるのが大事だと思います。医療費の抑制がはかれると思います。

0歳児は3人を1人が見なければならぬ。非常に単価が高い保育である。制度を考え直して、社会が子どもを育てなければいけない時代になりました。そういうことであるのだったら、子どもを応援する形できちんと休ませる、それを社会全体が負担をします、保育料で負担するのではなく、そういう負担しますという世の中が変わってほしいと思います。

1年間でこの町には150人の子どもが生まれます。そして検診をすると50の方が発達障害かも知れないというふうになるのです。その方たちは途中から“大丈夫だね”と外れていくが、かなりの人が発達障害ではないかと心配しながら保育に行きます。保育園にいくら加配をつけたって足りない。小学校や中学校でも先生が足りない。社会的な不安もものすごく大きくなっている。一番負担を受けているのは子どもです。育てているご両親です。僕たちがもう少し考えてあげないといけないのは、子どもが一番いい環境で育つのは何か。これから日本で人口が増えていかなければいけないのであれば、その子どもがめいっぱい能力を発揮して育てられるような環境にしなければならぬ。保育を追及していくと保育所からだんだん家庭が離れていきます。そのところを非常に言いにくいのが頭の隅に置きながらこの議論はしていかなければならないと思います。

**(浜田委員)**

なぜ11ヶ月雇用なのですか。

**(山崎総務課長)**

1年は可能ですが、そこで中断して1ヶ月空くということは同じです。というのは更新は6ヶ月が最高で、そこから1ヶ月あけなくてはならないので、1年を考えたときに6ヶ月もしくは5ヶ月という形になります。

**(法光院市長)**

保育の臨時さんだけをそういうふうにするわけには行かない。ここで働いている全ての臨時さんに等しくやっていく必要があるのです。その算盤をはじいてみると、もったいない雇用をしている金額とこれから新しく出さなくてはならない金額を比べると、新しく出さなくてはならない金額が多過ぎるのです。そこが算盤をはじいてやっていて、もっと良いやり方は無いのか、もっと臨時さんを絞り込めないのかそういうことを議論しているのです。

**(浜田委員)**

事務職は人数が多いので10ヶ月だろうが6ヶ月だろうが必要に応じてやればいいのか、人を扱う分においては別にそれが同じ職ではないので、保育も行政職といえ行政職かもしれないが、求められているものが違うので、職として一年が適切であるのならその方が効率的であるし、お金を使うことは無い。その方が税金を使わない。そこが不平等というのがおかしい気がします。

**(山崎総務課長)**

12ヶ月の雇用形態はないことはないです。一般職の非常勤という形になります。ただ時間数に制限があります。正規の職員の4分の3以内ということになっています。

**(浜田委員)**

それも分かっています。全て分かった上で質問して、今の制度というのはいつの時代の制度から変えられていますかと聞いています。要はその時代に応じて法改正もされて法も変わってきている。だからその職場、職場に応じて効率もでてお金を使わない方法を考えるのが、市民に対する考え方ではないですかと思っています。

**(法光院市長)**

そのとおりです。この職場は違うよね、と納得してもらうことがあるかないかですよ。でも身分は同じですから、身分が同じ人を同じ扱いしないということはまた問題が起こってくるので、やはり制度に準じて切り替えるときには、全て整合させてやらないと、不利益をこうむったとなるとその人たちが訴え出てきますよね。そのところはわかっているけど、はじきつつ進めているところです。

**(竹平委員)**

名前を付けると特定業務というようなかたちにもなろうと思うのですが、「子どもを相手に業務をする」ということは明らかに誰が見ても一般から見ても違うと分かりますよね。行政の枠の中で押し込めて検討するとどうしてもいろいろの問題が出てくる。

普通の事務系、技術系と並べた勤務形態ではないかと思います。

**(山崎総務課長)**

ありがとうございました。一つ分かっていたきたいのは保育の運営形態ですね。職員の労働時間は7時間45分です。それに対して保育時間は11時間、もしくは12時間という、どうしても複数の職員が子ども達にあたる、これは避けられません。そうなったら創意工夫と子どもへの接し方で質を上げて子ども達に接していただきたいというのが現状です。採用に関しては今の委員さんの思いも伝わってきましたので、そういうことも含めて検討して行きたいと思います。他にはご意見は無いですか。

**(時久教育長)**

保育の内容とか先生の育成では平成22年23年ぐらいに先生の研修のあり方を大いに見直してくださると、総務課長が保育の担当でおられたときに担当の見直しという事を変えてくださって、その後幼保支援班がずっとやりながら、教育センターの研修にたくさん行っています。

県の研修とか県の方から入ってきて保育園でやってくれている研修というのが非常にたくさんできまして、年をおって初任者とか中堅とかに分かれて育てていくというシステムを県が作っているの、それをずいぶん取り入れてやっています。全体的にどういうふうに動いているのかというのは保育の先生は良く分かっている、何年か前と違ったということですね。園長

先生方も職員の先生方にこの会へ行ってきなさいと言うようなことで全部投げかけをして下さって、その他市のほうが人の補充をしてくれているので、そういう意味ではかつての研修とは違っています。

研修をしてくと子どもの見方が違ってきますのでそれは大いに変わってきたことです。ただ、まだまだ子どもをいかに育てるか、教育の部分では課題があるので今全力であたっているとこです。

**(山崎総務課長)**

議論が白熱して予定の時間があと5分ということになりましたけれども、今後こういった議題については継続的に議論をしていきたいと思います。

今日のところは、議事はここで閉めたいと思いますが、次にその他ですが提案がありますでしょうか。

私の方から一点、この総合教育会議の開催について、今年は初めてということで2回目を取りあえずやっってからという話にしておりましたが、本日で2回目が終了しますが、年度内の開催はどうかということと、定例として年間何回開催するのか、議論をしていただきたいと思います。

**(宮地委員長)**

総合教育会議はよその自治体は分かりませんが、今年のような形で市長さんの意見を拝聴したいという大きな目的でございます、そういうふうを考えていますと、1回、2回ではなかなか無理だろうと、少なくとも3回ぐらいが必要だと、市長さんの話を聞きながら適切に行政に生かしていくと考えると年間3回ぐらいが適切ではないかと考えています。

**(竹平委員)**

はい、私もその意見に同意します。

**(山崎総務課長)**

定例としては3回ということを決めておきたいと思います。今年度については2回目が終了ということになりましたのであと年度内に定例会を1回緊急事態については、その限りではありません。大体何月ごろに開催したらよろしいでしょうか。

**(時久教育長)**

当初も三回ぐらいが適当ではないだろうかと言っていました。春の頃と今頃と3学期のあたりでどうかといていたんですけど、月は決めてなかったのも、あまり切羽詰るより2月ぐらいとかそれぐらいがいいのかなと思います。

**(山崎総務課長)**

そうですね。3月は議会とかありますので、2月ぐらいに開催ということで日にちについては、事務局のほうで調整させていただくということでもよろしいでしょうか。

**(承認)**

**(山崎総務課長)**

以上で一通りの総合教育会議が終了しました。時間いっぱいまで貴重なご意見いただきまして、今後の教育行政に活かして行きたいと思っております。長時間ありがとうございました。

**(閉会 午前11時58分)**